

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200373		
法人名	(有)ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム清水三保の家（3号館）		
所在地	静岡県静岡市清水区三保3503-74		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の共同生活介護というグループホームの特性を考え、地域との関わりを密にし、隣接している公園への毎日の散歩や地区の祭りや行事への参加を通して、社会から遊離することなく一人一人が存在を示している。

又、ホームの共同生活の中で一人一人が役割を自ら選択し、食器拭き・テーブル拭き・洗濯物たたみ・ポスターづくりなど、ホームの一員として自分のペースで生活している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸近くの閑静な住宅地に事業所があります。プランターの花々が風にそよいで出迎えてくれ、職員の日々の気働きが感じられます。運営推進会議を職員が担当制で運営したり、20名中10名の職員が介護福祉士の資格を有するなど、開設から9年を経て着実に職員を育ててきたことが窺えます。地道な努力は地域にも向けられています。利用者との散歩を通じて培ったつながりや清掃等自治会活動の積み上げは、「避難場所になって欲しい」と地域から申し込まれる形で本年実っています。朗らかでオープンな管理者の下、意欲の高い職員が「ゆったりとした生活」に向け尽力していることが一つひとつの取り組みから受けとめられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で楽しくゆったりとした「第二の人生」を送る場所を提供出来る様に職員一同取り組んでいる。	新人職員には地域密着型の特徴とともに理念を説明するようにしています。「実際の家ではありませんが、あたかも家庭であるかのようにとの観点で支援しています」との管理者の言葉通り、利用者に自然に寄り添う職員の姿を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の公園への散歩や地区のお祭りに参加したり、運営推進会議等を通して地区の方々やご家族のとの交流の機会を設けている。	3階建てであることから「津波の際にはぜひ避難場所に…」との声も挙がっていて、毎日の散歩から始まった近所づきあいが実りつつあります。中学生の福祉体験の受入も今年から始まりました。ボランティアの訪問も定着し、利用者にも好評です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して様々な意見を伺い、ご家族との関わりの中で、実践を通して得た認知症介護についての知識や技術を地域の皆様に発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では外部評価や報告事項・利用者やご家族からの意見を聞き話し合い、それを元にサービス向上へと繋げている。	運営推進会議は年度計画を立てる中で担当職員を決めており、進行役と書記の2名で隔月運営しています。各職員が分担することで、参加者の顔ぶれや内容に彩があり、充実しています。また、包括職員にも毎回参加してもらい、地域連携に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者や身寄りの無い方や家族からの援助が受けられない方など市の担当者と綿密な連携を行い利用者にとって最善な方法を選択している。	地域包括支援センターの声がけに応じ、小学校の福祉教育に参加し、事業所として貴重な体験となっています。包括ではホームページに空き室状況などをアップしていて、何かと事業所に役立つよう支援してくれています。また、市主催の研修会にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護研修に参加したり本部よりのサテライトビデオ研修を見て身体拘束をしない介護を心掛けて実行している、又、出入口や非常口は利用者の状態に合わせて対応している。	不穏な様子があると閉めることもあります。が、9時～4時を開錠と決めています。外部研修に参加するほか内部研修もあり、また朝礼で毎回繰り返し大切なことを読み上げて、意識の継続を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	企業内研修や自治体研修等で研修後、レポート提出も義務付けられている。全職員常に重要な課題であることを認識して、日々のケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数の利用者の方が日常生活支援事業や成年後見制度を利用されていて常に担当者とは連絡が取れる状態になっている。又、より以上の知識が得られるように努力している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族には契約書等の書類内容について詳しく丁寧に説明し十分理解や同意が得られるよう努めている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置したり利用所やご家族の意思や意見を伺う機会を持ち、日々のケアに反映させている。又、相談者の来社の折に気軽に相談出来るように雰囲気作りに努め相談員より報告も受けている。	「三保だより」と名付けた運営推進会議の議事録縮小版を作成し、参加されなかった家族に届けています。ユニット毎のリーダーが面会や電話でのコミュニケーションを密にとり、家族意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けています。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションや申し送りノート等を通して意見集約し職員会議で問題点について話し合い早急に解決できるような対処に努めている。	朗らかでオープンな管理者の下、ベテラン職員の意欲の高さに若い職員が刺激され、一つにまとまっていることが受けとめられました。管理者は傾聴を心掛けていて、迷う職員にはゴール(目標)は何かをあらためて考えてもらえるよう支援しています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況に応じ年数や資格取得により手当が支給される。職員がやりがいを持てる職場環境・条件の整備に努め有休もなるべく本人の希望に応じて取れる様にしている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後、段階に応じた研修を受ける機会が設けられ、学習したことをまとめてレポートの提出がご義務付けられている。個々に実践に役立つ取り組みや研修を受けることを奨励している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域調整会議などを通じてより良いサービスが提供出来る様努力している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・ご家族の面談を行い本人の心身状態や生活歴を把握し理解するよう努め信頼関係を築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・ご家族の意見、要望などを伺いながら、ご家族が抱えている問題や求めているニーズに対応できるように常に連絡を取り合い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人とご家族が必要としている支援が可能であるか見極め、総合的に判断したうえで、必要可能なサービス支援をしている。場合によってはほかの施設を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ時間を共有し、新しい発見をし家事等の手伝いをさせていただく事により、生活の中での共同の役割を担っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や行事などへの参加を呼び掛けたり、病院受信など、可能であれば付き添いをお願いしたりして、協力して貰える様な働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、ご家族や親せきの方々の訪問を歓迎し、外出などの機会を作って貰える様働き掛けている。	毎朝の散歩では顔なじみの人もでき、清廉な空気とともに会話を楽しんでいます。全館通じて本を読むことを続けている利用者もいて、各フロアの本を時折交換しています。また、家族以外の親戚、知人の訪問も歓待しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が快適で楽しいものとなるよう、利用者同士が、コミュニケーションをとれる雰囲気づくりに努め、家族的な関係が築ける様、支援している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切にし、その後の状況を把握するよう努め、相談にのる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の気持ち、意見に耳を傾け、可能であるか、見極めながら、本人の意向・希望に出来るだけ添える様に、心掛けている。	介護相談員とは外出時の思い出を話したり、親しい関係を構築しつつあり、相談員を通じて本音を聞く場合もあります。管理者はじめ職員も聴くことが大切と考えていて、普段の会話の中から新たな意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族より情報収集し、これまでの暮らしを、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や様子観察により現状を観察し、日々の健康状態の変化を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察に加え、ご家族からの情報収集や意見などを反映し、現状に即した、介護計画を作成出来る様努めている。	担当制を設けていますが、全員の意見を取り入れるようにしています。3ヶ月に1回モニタリングし、2号館、3号館では加齢によるADLの低下とともに自立度もまちまちのため、全員作業のクラフトなどをプランに取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事・変化・様子を常に個別記録に記入し、その情報は常に職員間において共有し、話し合いケアの実施に役立て時には介護計画の見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、病院や外出などに職員が付き添い、その時々必要に応じて行っている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の方に防災訓練を指導して頂いたり諸関係機関の協力を得ながら豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人ご家族の希望に添う様定期的に受診を行い、精神面においても相談にのっていただき必要に応じて総合病院への紹介やアドバイスを受けている。	近所で開業している協力医に心身の状態を2週間に1回報告し、また受診の際にも今後のケアについて相談し、アドバイスをしています。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしていますが、職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪れる職場内の看護師に、利用者の状態や様子を説明・相談しアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による精神不安などを少しでも取り除けるよう面会に出かけたり医療機関とは常に連絡・相談を行い早期に退院出来るよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人ご家族の希望に添う様定期的に受診を行い、精神面においても相談にのっていただき必要に応じて総合病院への紹介やアドバイスを受けている。	契約時に事業所で取り組めること、できないことを説明しています。これまでも、重篤化した場合は医療機関や家族と協議しています。看取りの書面化は未だありませんが、緊急時の対応マニュアルや医療連携レベルの書面は整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の日々の体調変化に目を配り日頃より全職員は急変時や事故発生時に備えて応急手当や初期対応の講習、訓練を行い実践に生かせるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導により年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議などにおいて地元の自治会長や民生委員の方々と話し合い、災害時におけるの協力をお願いしている。	利用者も参加する津波想定内部訓練のほか、自治会の防災訓練にも参加しています。地域からの事業所訓練の参加は叶っていませんが、近所からは「避難場所に…」との声をもらえています。リスクマネジメントの観点から、グループ内の事業所間で備蓄を分散しています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しながら対応を心がけ、個人情報の取り扱いも慎重に行っている。	法人本部から送られてくる「接遇」や「倫理遵守」の資料を朝礼で読み合わせるとともに、読んだら押印することになっていて、周知徹底が図られています。利用者ごとに性格が違う事を留意して接するよう、管理者からも常に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が気軽に訴えや希望を話せるような雰囲気づくりに努め、わかりやすく安心できるような説明を行い自己決定ができるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ意思を尊重しながら希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は2か月に一度の訪問サービスにより本人の希望を交えながらのサービスを受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節感を取り入れたメニューを考え調理や盛り付けを工夫している。片付けはできる方に役割を無理の無い様手伝ってもらっている。	口頃から希望を聞くようにしているとともに嗜好調査もおこない、好みの食事を提供しています。3号館には食事制限の利用者もいて、カロリーの調整に普段以上の配慮をしています。誕生会には手作りおやつも提供していて、写真掲示でも利用者の満面の笑顔を確認しました。	嗜好調査の場合、多数決の傾向になりがちです。個々の要望を具体的に調整する方法についてご一考願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量のチェックを行い10時15時のお茶の時間や入浴後の麦茶の補給を行い一人一人の状態に合わせた対応を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた口腔ケア、声掛け・見守り・介助により習慣づけている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングを把握して、食前・入浴前・就寝前のトイレ誘導や訴えがあった時に対応出来る様支援する。	自立している利用者であっても声掛け程度はし、生活リズムが乱れないよう配慮しています。トイレで排泄してもらうことを旨としていて、昼間はパットとリハパン対応ですが、タイミングのよい誘導により失禁はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など身体を動かし野菜を中心とした食事を工夫している。排便チェック表を確認して場合によっては服薬指導を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リラックスする場所であり会話が弾む場所であり、入浴時間を楽しみにしています。	1号館と3号館は週2日休みの日を設定していて、5日間を入浴日としています。散歩後に提供している午後の入浴は利用者の楽しみのひとつです。ゆず湯など季節のかわり湯もおこなっています。	今後毎日入浴したい希望がでた場合、どのように対応するのか、実現にむけた検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースを尊重しながら安眠できるように天気の良い日には布団を干したり季節ごとに寝具を替える様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル、薬のファイルに情報が保管しており職員はその薬の目的や用法について理解しています。体調変化があった場合は医師に相談して対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いをやっていたり、テレビを見たり、歌を唄ったり、塗り絵をしたり・編み物・裁縫をしたり、それぞれの趣味に合わせて、時間を過ごしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の体調をチェックしながら、天気の良い日は毎日、公園へ散歩をしています。歩行困難な方でも職員の介助で車椅子で出かけます。	毎朝公園に出掛けていて、単に歩くだけでなく、会話をもった散歩を心掛けています。ドライブを兼ねた外出は、自動車の台数がないためピストンとなり難儀がありますが、それでも年2回おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常、買い物は職員と一緒に掛けている。外出困難な方はご家族の了解のもと、ご家族にお願いするか職員が代わりに買い物をしている。現在、ご自分で金銭管理をされている方は、おりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望により電話を掛けたり、字が書ける方は年賀状や暑中見舞いのハガキを書いて、ご家族からの返事を楽しみにされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、居室などプライバシーが保てるようになっています。ホール、廊下、居室には誕生会や季節の行事の写真や利用者の作品等も展示しており、季節ごとの飾りつけも利用者と一緒にしている。	2号館、3号館では全員でクラフト制作に取り組む機会が多くあるとのことで、共用空間には籠や貼り絵の成果物が飾られ、温かみを感じられます。書籍や新聞が置かれ、在宅時からの生活が続いていることが視認されました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間にはテーブルやソファ・テレビを配置し入居者各人が自由に好きな場所に腰掛け、いつでも、くつろいだ時間を過ごせるような空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具や日用品を持ち込み、ゆったり、安心した生活を送れるような居室づくりを心掛けている。	3号館では居室からの眺めもよく、清掃も行き届いています。居室の掃除は職員がおこなっていますが、手伝える利用者は一緒に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には安全を考え、手すりが随所に設置され、利用者のペースに合わせたりハビリも出来る環境であり、車椅子でも自由に移動できるよう物の配置にも工夫をしている。トイレや浴室などにも目印をつけている。		